

PARTICIPANTS

Francesco Bonami フランチェスコ・ボナミ ITALY
 Achille Bonito Oliva アキレ・ボニート・オリヴァ ITALY
 Nicolas Bourriaud ニコラ・ブリオール FRANCE
 José Luis Brea ホセ・ルイス・ブレア SPAIN
 Kate Bush ケート・ブッシュ U.K.
 Dan Cameron ダン・キャメロン U.S.A.
 Giulio Clavolletto ジュリオ・チャヴォイエット ITALY
 Adrian Dannatt アドリアン・ダナ U.K.
 Robert Daolio ロベルト・ダオリオ ITALY
 Joshua Decker ヨシュア・デクター U.S.A.
 Jeffrey Deitch ジェフリー・ダイチ U.S.A.
 Giacinto Di Pietrantonio ジャチント・ディ・ピエトランティオ ITALY
 Robert Fleck ロベール・フレック FRANCE
 Carl Freedman カール・フリードマン U.K.



Mary Jane Jacob メリー・ジェーン・ヤコブ U.S.A.
 Helena Kontova エレナ・コントヴァ ITALY
 Donald Kuspit ドナルド・カスピット U.S.A.
 Luk Lambrecht リュック・ランベール BELGIUM
 Christian Leigh クリスチャン・リー U.S.A.
 Corrado Levi コラード・レヴィ ITALY
 Robert C. Morgan ロバート・C・モーガン U.S.A.
 Andrew Renton アンドリュー・レントン U.K.
 Jérôme Sans ジェローム・サン FRANCE
 José Lebrero Stals ホセ・レブレロ・ストール SPAIN
 Catherine Strasser カトリーヌ・ストレセル FRANCE
 Antonio Muntadas アントニオ・ムンタダス SPAIN
 Angela Vettese アンジェラ・ヴェッテゼ ITALY
 Brian Wallis ブライアン・ウォリス U.S.A.
 Benjamin Weil ベンジャミン・ヴェイル U.S.A.
 Tom Wolfe トム・ウルフ U.S.A./Special Guest

批評の役割ゲーム

クリティカル・クエスト ジャパン

1994 6 1 6 12 AM.11:00~PM.8:00
 WEDNESDAY MONDAY ALL DAY
 ADMISSION FREE

会場：スパイラル1Fスパイラルガーデン

主催・企画・運営：クリティカル・クエスト実行委員会
 ORGANIZER : COMMITTEE FOR CRITICAL QUEST JAPAN

【お問い合わせ】スパイラルガーデン 03-3498-1171 (代表)
 実行委員会事務局 03-3431-6042

後援

イタリア文化会館、東京アメリカン・センター、ブリティッシュ・カウンシル、
 フランス大使館、ベルギー王国大使館、スペイン大使館、社団法人 企業メセナ協議会

協賛

Asahi アサヒビール

助成

国際交流基金

協力

ソニー株式会社、株式会社エルモ社、株式会社竹尾、M²・エンタープライズ、
 ドロップス、ネオ・ホドス、オスカール・カンパニー

会場協力

株式会社ワコールアートセンター

With the support of

Italian Cultural Institute, Tokyo American center, The British Council,
 Embassy of France Republic, Embassy of the Kingdom of Belgium, Embassy of Spain,
 Association for Corporate Support of the Arts.

With the sponsorship of

Asahi Breweries, Ltd.

Special support by

The Japan Foundation

With the cooperation of

Sony Corporation, ELMO Co., Ltd., Takeo Co., Ltd., M²・Enterprise,
 NEO-HODOS, Drops, OSCAR Co., Ltd.(Olwa & Seki Contemporary Art Company Limited)

Exhibition space provided by

Spiral / Wacoal Art Center

NEW PARTICIPANTS

Fei dawei 費 大为 CHINA
 Yuko Hasegawa 長谷川 祐子 JAPAN
 Akiko Hyuga 日向 あき子 JAPAN
 Yasushi Kurabayashi 倉林 靖 JAPAN
 Fumio Nanjo 南條 史生 JAPAN
 Min Nishihara 西原 珉 JAPAN
 Masashi Ogura 小倉 正史 JAPAN
 Kenjiro Okazaki 岡崎 乾二郎 JAPAN
 Noi Sawaragi 榎木 野衣 JAPAN
 Motoaki Shinohara 篠原 資明 JAPAN
 Ikuro Takano 高野 育郎 JAPAN
 Arata Tani 谷 新 JAPAN
 Akira Tatehata 建畠 哲 JAPAN

Critical Quest

igiocchi di ruolo della critica

The show "Critical Quest Japan"

is based on an original idea

by Alessandra Galletta and Marco Senaldi,

It was organized in 1993 in Milano

by Associazione VIAFARINI,

a non profit organization and Galleria Transepoca.

批評やキュレーション（展覧会企画）と言った行為はアートと社会を結びつける上で、欠くことのできない役割を果たしています。だからこそ私たちは、その役割について、もう一度考えたいと思うのです。深い考察力と高い創造性を持ち、誰にも媚びることなく、明確なスタンスに基づいた活動を行なったとき、批評、キュレーションは、アートにとってさらに大きな役割を果たすことになるでしょう。

【クリティカル・クエスト ジャパン〈批評の役割ゲーム〉】
展は批評の役割に関する議論がどこから始められるべきなのかを示す、格好の道標になるはずです。本展をきっかけに、人々がより多くアートに触れ、アートに関わる人々がそれぞれの役割についてさらに考え、新たな議論が生じるきっかけとなれば、とても嬉しく思います。

本展は、1993年夏、30人の批評家を招待してミラノでスタートしました。今回の東京展開催にあたり、私たちは日本と中国の批評家／キュレーター13人を招待しました。そしてこの展覧会が関西、北九州さらにニューヨークへと、旅を続けることを私たちは期待しています。

クリティカル・クエスト実行委員会
関 ひろ子（プロデューサー）

The activities that go by the name of criticism and curation play an indispensable role in linking together art and society. That is why we would like to consider, once more, the significance of this role. Criticism and curation that are carried out with a clear stance, favoring no one, with deep consideration and a high level of creativity, will no doubt be even more important for art in the future.

The "Critical Quest Japan - Playing the Roles of Criticism" exhibition should become an exemplary guidepost indicating the space where debate about the roles of criticism ought to begin. I will be most happy if this exhibition occasions new debates, allowing more and more people to come in contact with art and helping those connected with art to think over their own individual roles.

The exhibition began in Milan in the summer of 1993 with thirty invited critics. Now, for the Tokyo opening, thirteen more Japanese and Chinese critics and curators have been newly invited. We look forward to further openings in Osaka area, in northern Kyushu, and in New York.

Hiroko Seki, Producer
Committee for Critical Quest Japan

〈Gallery Tour & Afternoon Tea〉

ギャラリートゥア&アフタヌーンティ

6月4日(土) 13:00~16:00

本展開催にあたりミラノからオリジナル キュレーターとプロデューサーを3人お招きしました。
"クリティカル・クエスト" 展やイタリアのアートシーンについてお話しただけだけでなく、皆さんと一緒にスパイラル周辺のギャラリートゥア訪問をします。どうぞフェイス トゥ フェイスのホットな楽しいひとときをお過ごしください。

参加費用：2000円

(スパイラルのカフェでのお茶代、交通費を含みます。)

お申込み：お名前、年齢、住所、電話番号、職業をお書き添えの上 FAXにて。

クリティカル・クエストジャパンギャラリートゥア係
(スパイラル内)まで FAX03-3498-9748

定員：20名(1グループ10名、通訳各1名)

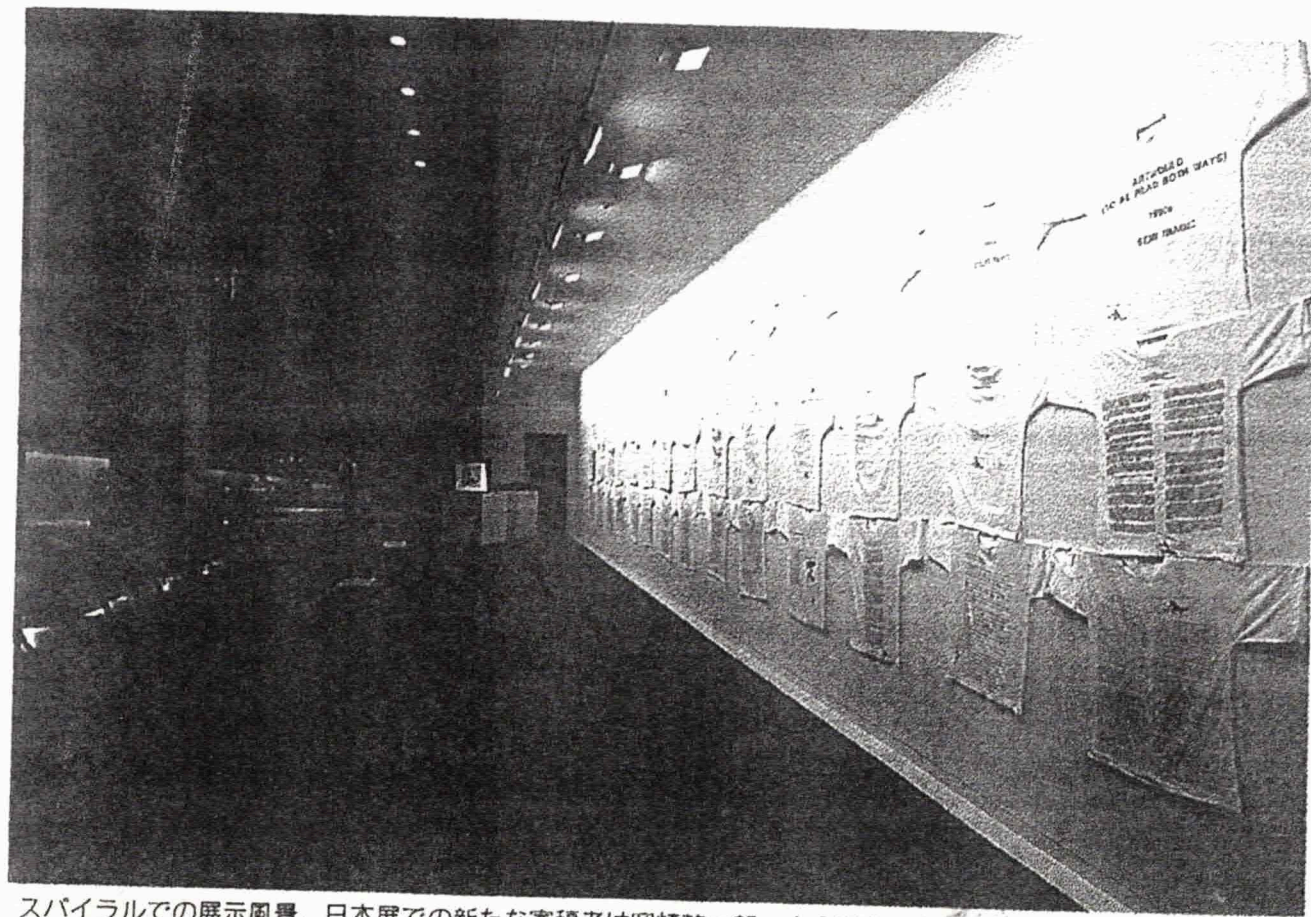
尚、発表は抽選後、返信をもって代えさせていただきます。



批評家やキュレーターに発信された。そして、彼らからの返事を展示したのが、昨年6月にミラノのギャラリーで開催された「クリティカル・クエスト」である。〈批評〉に焦点を当てたこの展覧会が1年を経て、「クリティカル・クエスト ジャパン〈批評の役割ゲーム〉」として南青山のスパイラルに登場。「トランス・アヴァンギャルディアの父」といわれたアキツレ・ポニート・オリヴァや、アメリカ、インディペンデント・キュレーター界の鬼オクリス

本展にはいわゆる美術作品は展示されていない。あくまでも、アートを取り巻く〈言葉〉を生み出す人々が「自らの役割を呈示せよ」というテーマに基づいて寄稿した文章(一部ビデオもあり)が並んでいるのである。FAXや手紙など主催者に届いたままの形がTシャツにプリントされ、展示されているところは、〈物干し〉のようだ。主張を胸に印刷されたシャツは〈物言う洗濯物〉といったところか。

日本展の主催者が開催を思い立ったの



スパイラルでの展示風景。日本展での新たな寄稿者は岡崎乾二郎、小倉正史、倉林靖、榎木野衣、篠原資明、高野育郎、建島哲、谷新、南條史生、西原理、長谷川祐子、



寄稿文は主催者にとどけられたものとなつてTシャツにプリントされた。シ・ボイス」での掲載原稿を寄稿し、アメリカ編集長ブライアン・ウォルフェの紹介と資金サポートを訴え、ト・キュレーター、ジャチント・デ

したスパイラルのスペースも大きかったと

また、この展覧会は美術界の間で、「批評はアート」という点において論議を呼びました。そのようなやりとりをアートについての言葉をかきつけた企画展といえる。

以下、日本展参加者より

「略/批評はジャーナリズムではない 批評はレトリックではない 批評は理解ではない 批評は洞察である 批評は洞察である 批評は造作である 批評はアートである」
南條史生」

「略/どのようにしても、主観とならざるをえない。選ばれたアーティストがそうである限りなく真実に接近して、アクションの力を備えてい

ない。なるこ、世田を

アートを支える言葉がTシャツの作品に！キュレーターと批評家が主役になった展覧会。

"CRITICAL QUEST JAPAN"



ジャント・ティ・ピエトランドニオ



ブライアン・ウォリス

作品をつくるのはアーティストで、それを展覧会にしたり批評するのがキュレーターや美術評論家の役割だ。ところが「クリティカル・クエスト・ジャパン展」批評の役割ゲーム」は、そのキュレーターや批評家たちが主役となった珍しい展覧会。昨年イタリアのミラノで30人の欧米キュレーターたちを集めて開かれた「クリティカル・クエスト」展に、日向あき子や榎木野衣ら13人の日本の批評家を加え、スパイラルで開催される。出品作品は、それぞれのメッセージやエッセイをプリントしたTシャツ。これらは展示即売され、観客もTシャツを着ることで展覧会に参加できるわけだ。あなたの心からだにフィットする作品を、探しに行こう。

「クリティカル・クエスト・ジャパン展
—批評の役割ゲーム—

6月1日(水) - 6月12日(日)
スパイラルガーデン 11:00 - 20:00
会期中無休 入場無料

みずからの〈女性〉性に肉薄するアメリカの女性アーティスト。

"EXISTENCE AND GENDER: Women's Representation of Women"

体をテーマに制作するアメリカの女性アーティストを紹介する展覧会。髪の毛や足など身体の一部を版画で描いたルイーズ・ブルジョアや、紙でつくった人形で女性の内面を表現するキキ・スミスなど、世代の異なる5人が五者五様に表現する女性像を比べてみるのも興味深い。アートを通して性について考え直す絶好の機会だ。



フェミニズムをはじめ、同性愛やエイズ、セクハラなど〈性〉そのものが社会問題化しているアメリカでは、みずからのアイデンティティを問うような女性アーティストが少なくない。これは、女性の社会的地位や性の問題をテーマにした芸術表現に控えめな日本とは対照的だ。「生と性：女性が描く女性像」展は、こうした性や身



キキ・スミス
Untitled, 1991



ルイーズ・ブルジョア
from the Anatomy Series
1989/90
左：ジーン・タニング
Untitled with Hairs 1992

「生と性：女性が描く女性像」展

6月24日(金) - 7月10日(日) スパイラルガーデン 11:00 - 20:00 会期中無休 入場無料

参加アーティスト：ルイーズ・ブルジョア/ジーン・タニング/キキ・スミス/ナンシー・スペロ/キャリー・メイ・ウィームス

V
O
I
C
E
S

スパイラルを訪れたクリエイターたちが残していった貴重なコメントを紹介しているこのコーナー。今回は、フランスから来日したダンス・カンパニー、スタジオd.m. のカトリーヌ・デイヴェレスさんとベルナルド・モンテさんのお二人と、ロンドンを拠点に建築の指導教授をする傍ら、アート活動を行う江頭慎さんにお話を伺った。

(作家/94年4月)

「一人にとって気持ちのよい空間」という曖昧で均質な価値基準のもとにオブジェクトが消失してゆくにつれて建築の本来構成すべき文脈さえも空中分解してゆくようです。オブジェクトと人との関係性に興味をもつ私には消されてゆくもの「建築が失った不可能なものたち」を取り戻すための装置をつくるのが第一の課題です。

江頭 慎
87年の北京での集合住宅計画以来、いわゆる建造物を設計する活動はしていません。近代化以降の情報科学の進歩とともに、人(身体)とオブジェクト(異物・対象物)との関係性は曖昧で希薄になってきているようです。近代以前は、例えば銀行も金貨、紙幣を中心にしてそれを取り巻く堅固な金庫や取引の場などが存在することで、様々な境界線を決定し、人々がそれらの境界線を越えることで多くのストーリーが展開された。建築はこれらの境界線や文脈を構成する要素として存在していたようです。非物質化が進む現代では、金貨や紙幣はコンピュータのデータと化し、対象物を失った銀行はいわば象徴的な交換のみの看板のように機能している。「人にとって気持ちのよい空間」という曖昧で均質な価値基準のもとにオブジェクトが消失してゆくにつれて建築の本来構成すべき文脈さえも空中分解してゆくようです。オブジェクトと人との関係性に興味をもつ私には消されてゆくもの「建築が失った不可能なものたち」を取り戻すための装置をつくるのが第一の課題です。

カトリーヌ・デイヴェレスとベルナルド・モンテ
今年2月にフランスの国立レンヌ振付センターのディレクターに就任しました。帰国後その振付センターで10月末に発表する新作「カトリーヌ・デイヴェレスとベルナルド・モンテ」の準備が完了しました。今後はレンヌを拠点に、いろいろな国のアーティストとコラボレーションを展開していきたいと思っています。特に日本のアーティストとはぜひ実現させたい。日本は我々にとって特別な国ですから。(振付家タンサー/94年3月)

V
O
I
C
E
S

CRITICAL GAMES

「クリティカル・クエスト」についての考察

アレサンドラ・ガレッタ／マルコ・セナルディ

1991年から1992年にかけてヨーロッパでは、アーティスト、キュレーター、批評家がそれぞれの働きと立場をとりかえた展覧会が、数多く開かれました。いま美術批評はいったい、どういう段階にあるのでしょうか。アートのシステムのさまざまな面はそれぞれ、どんな働きをもっているのでしょうか。

アーティストという存在から検討を始めましょう。今日、美術作品はさまざまな性質のものを含んでいます。その一つは実際の作品、すなわち目で見て手で触れられる作品です。いま一つは、作品に関する言説なのです。今日、幾人かのアーティストは実に自分の作品についてものを書き、（一日だけとはいえ）批評家になるのです。

一方で批評家は、アイデンティティーの危機に直面しています。というのは、かれらは非常に多様な美術作品とかかわらねばならず、また本物の批評がよりどころとしなければならぬ哲学をもつ必要があるのに、しばしばもっていないからなのです。

こうした考えから私たちは、いま最も熱心に注目に値する美術批評家の諸兄を、自身の考えを展示するよう招待したのです。また私たちは、会議のような形を避けて、代わりに展覧会という形式を利用しました。すなわち言葉の、あたかも美術作品であるかのような展示です。そして私たちは以下の批評家諸兄を招待しました。

アキーレ・ボニート・オリヴァ、フランチェスコ・ボナーミ、ジュリオ・チャ
ヴォリエロ、ロベルト・ダオリオ、ジャチント・ディ・ピエトラントニオ、エ
レーナ・コントーヴァ、コラード・レヴィ、アンジェラ・ヴェテーゼ

(イタリア)

ニコラ・ブリオ、ジェローム・サンス、カトリーヌ・ストラセ (ストレーセル)

(フランス)

ホセ・ルイス・ブレア、ホセ・レブレーロ・スタルス

(スペイン)

ケイト・ブッシュ、エイドリアン・ダナット、カール・フリードマン、アンド
リュー・レントン

(イギリス)

ダン・キャメロン、ジョシュア・デクター、ジェフリー・ダイチ、メリー・ジェ
イン・ジェイコブ、クリスティアン・リー、ロバート・C・モーガン、ブライ
アン・ウォリス

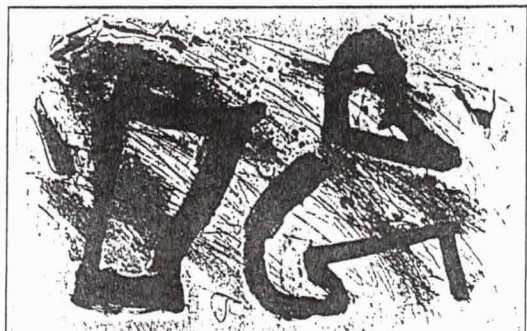
(アメリカ)

ルク・ランプレヒト (ベルギー)、ロベルト・フレック (オーストリア)、ベ
ンヤミン・ヴァイル (ドイツ)

招待された批評家の顔ぶれは、ここ東京での「クリティカル・クエスト」において日本および中国の批評家の諸氏が加わったため、豊かになりました。この人選は思いつきによるのではなく、厳正な批評的選考によるものなのです。私たちは、美術批評家がよりどころとすべき理論的視点あるいはテーマの探求の様子を見せるだけでなく、批評家やアーティストの立場と役割に変化が生じているということをも示したいと思ったのです。

理論と批評はいまや、単に美術作品を解説するための「使用説明書」ではないのです。それらは、美術のしごとの一部になっているのです。それゆえ理論と批評とは、美術作品と車の両輪をなして動いてゆくべきなのです。

5th INTERNATIONAL CONTEMPORARY ART COMPETITION



Andrej Jemec (Slovenia) "FORMS FOR EVERYTHING"
Silver Prize in Osaka Triennale 1991-Print

OSAKA TRIENNALE 1994 PRINT

Open Competition

ORGANIZERS:

Osaka Prefectural Government
Osaka Foundation of Culture

SCREENING COMMITTEE:

Shigenobu Kimura William S. Lieberman/Hiromi Masuda/
Tatsumi Shinoda Ryszard Stanislawski (in alphabetical order)

AWARDS:

(Award-winning works will be purchased with prize monies.)

- (1) Organizers' Awards
 - Grand Prize (1) = ¥5,000,000
 - Silver Prize (2) = ¥2,500,000 each
 - Bronze Prize (5) = ¥1,000,000 each
- (2) Cooperating Organizations' Awards
 - Special Awards (Several) = ¥500,000 each
- (3) Goethe-Institut Kansai and the City of Düsseldorf Prize
 - One Japanese artist will be invited to study art for 5 months in Düsseldorf.

DEADLINE:

Entries must be received by May 20, 1994.
(The First Screening will be conducted by viewing 35mm color slides of the entries.)

For further information contact:

Osaka Foundation of Culture
Osaka Triennale Bureau
333 Bldg., 2-7-4, Tanimachi, Chuo-ku, Osaka 540 JAPAN
(Detailed information and an entry form will be sent upon request accompanied by two international postal coupons.)

Critical Quest *i giochi di ruolo della critica*

Francesco Bonami, Achille Bonito Oliva, Nicolas Bourriaud, José Luis Brea, Kate Bush, Dan Cameron, Giulio Ciavoliello, Adrian Dannatt, Roberto Daolio, Joshua Decker, Giacinto Di Pietrantonio, Jeffrey Deitch, Robert Fleck, Carl Freedman, Mary Jane Jacob, Helena Kontova, Donald Kuspit, Luk Lambrecht, Christian Leigh, Corrado Levi, Robert C. Morgan, Antonio Muntadas, Andrew Renton, Jérôme Sans, José Lebrero Stals, Catherine Strasser, Angela Vettese, Brian Wallis, Benjamin Weil, Special Guest: Tom Wolf

New Participants Tokyo

Fer Da Wei, Yuko Hasegawa, Akiko Hyuga, Yasushi Kurabayashi, Fumio Nanjo, Noi Sawaragi, Min Nishihara, Masashi Ogura, Kenjiro Okazaki, Eriko Osaka, Motoaki Shinohara, Ikuro Takano, Arata Tani, Akira Tatehata

Exhibition

Spiral Garden

5 - 6 - 23 Minami Aoyama

Minato-ku Tokyo

Tel 81-3-34981171

TOKYO

June 1 to 12

1994

Japan Organizer

Critical Quest Committee

c/o OSCAr Co. Ltd

4-4-9 Shimbashi Minato-ku

Tokyo tel/fax 81-3-34316042

This show is based on an original idea of Alessandra Galletta and Marco Senaldi who realized the exhibition "Critical Quest" in 1993 in Milan in collaboration with Galleria Transepoca, and Associazione Viafarini.

Tokyo producer; Hiroko Seki